

地域福祉に関するアンケート結果

名張市地域福祉活動計画策定にあたり、高齢者、障害者及びその家族の方や、地域福祉活動をおこなっている方々を対象に、日頃感じている地域や福祉に対する想いや現状について聴き取ることにより、地域の課題を把握し、今後の支援策を検討することで地域福祉活動計画にその方々の想いを反映することができると考え実施したものです。

実施期間

配布開始日 11月2日(木) 回収期限 12月8日(金)

配布対象

- 第1部 高齢者、障害者及びその家族の方
- 第2部 地域福祉活動をしている方

配布部数・回収部数

第1部	高齢者、障害者及びその家族の方				
	配布部数	493部	回収部数	338部	回収率 68.6%
第2部	地域福祉活動をしている方				
	配布部数	410部	回収部数	267部	回収率 65.1%
合計					
	配布部数	903部	回収部数	605部	回収率 67.0%

.....

《もくじ》

第1部	高齢者、障害者及びその家族の方にきく	51～66ページ
第2部	地域福祉活動をしている方にきく	67～79ページ

第1部 高齢者、障害者及びその家族の方に（以下「当事者」という）にきく

目的

日頃感じている地域や福祉に対する想いについて耳を傾けることにより、地域の課題を把握し、今後の支援策を検討することで地域福祉活動計画にその方々の想いを反映できると考え実施したものです。

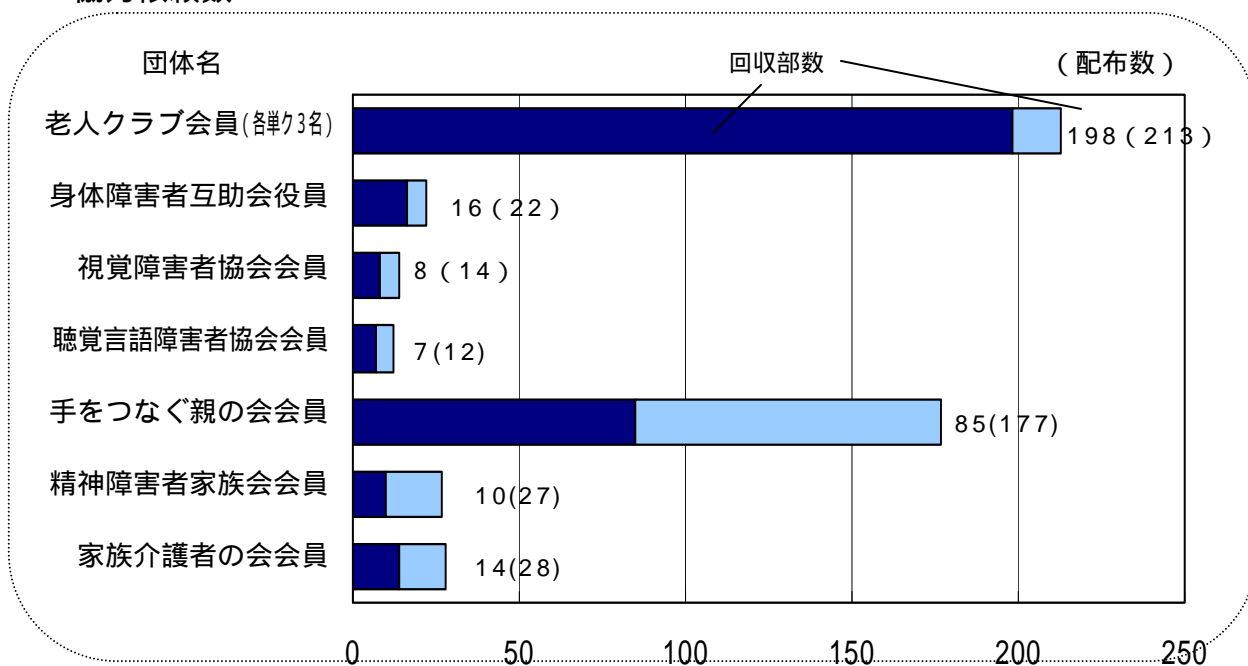
実施期間

配布開始日 11月2日（木） 回収期限 12月8日（金）

回収数・回収率

配布部数 493部 回収部数 338部 回収率 68.6%

協力依頼数

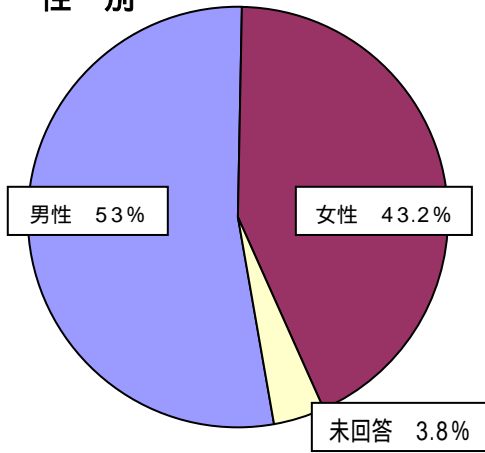


各団体の会合時期等の関係から各団体間で配布・回収方法・期間（直接配布・回収か郵便での送付・回収）が異なることや内容が主に高齢者向けに偏ってしまったことなどが、各団体間での回収率の差に表れてしまっています。

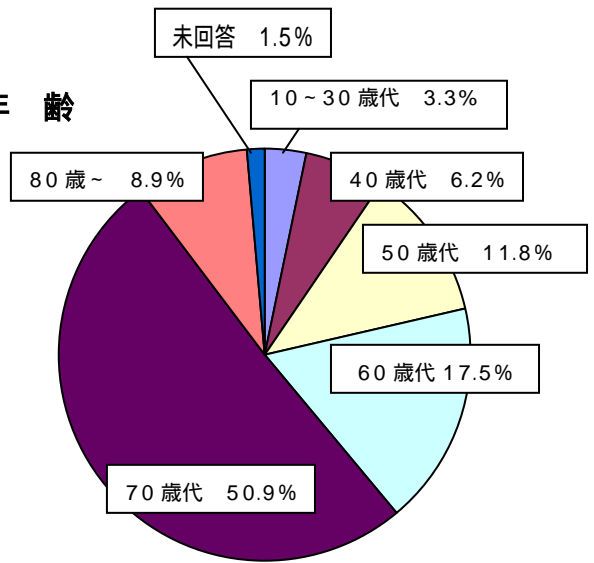
なお、配布数とその団体の会員・役員数ではありません。

回答者自身について

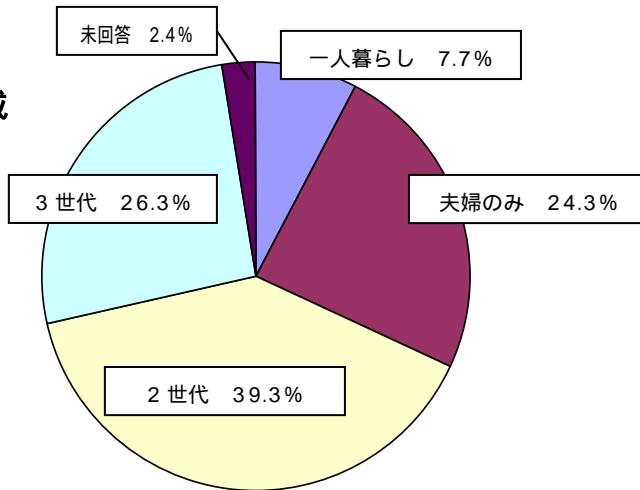
性別



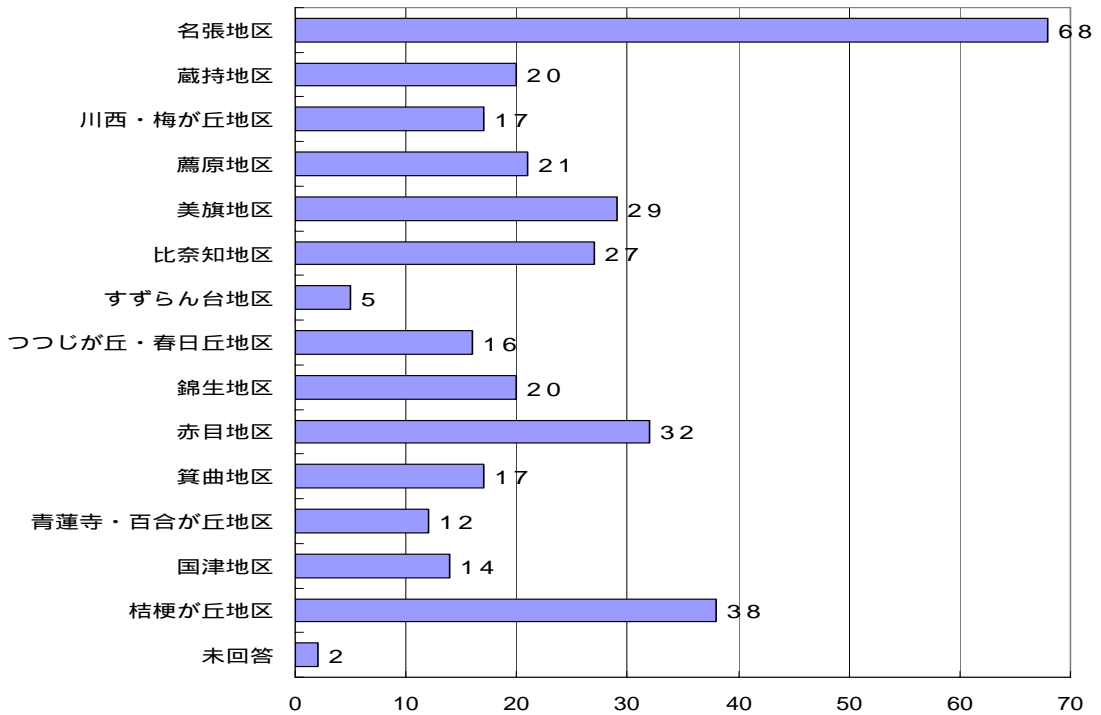
年齢



家族構成



住所

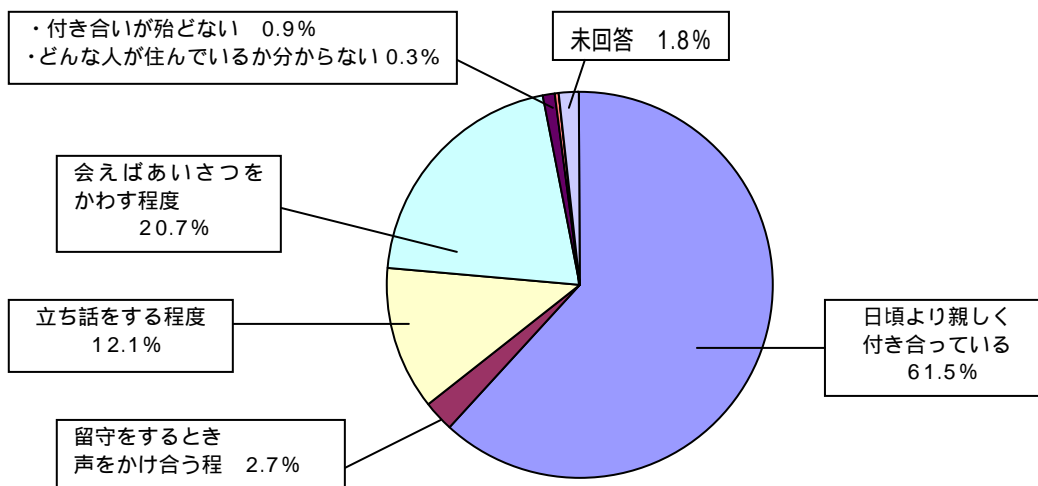


1. 当事者の地域における人と人とのつながりを見る

1) 当事者の地域におけるつながり

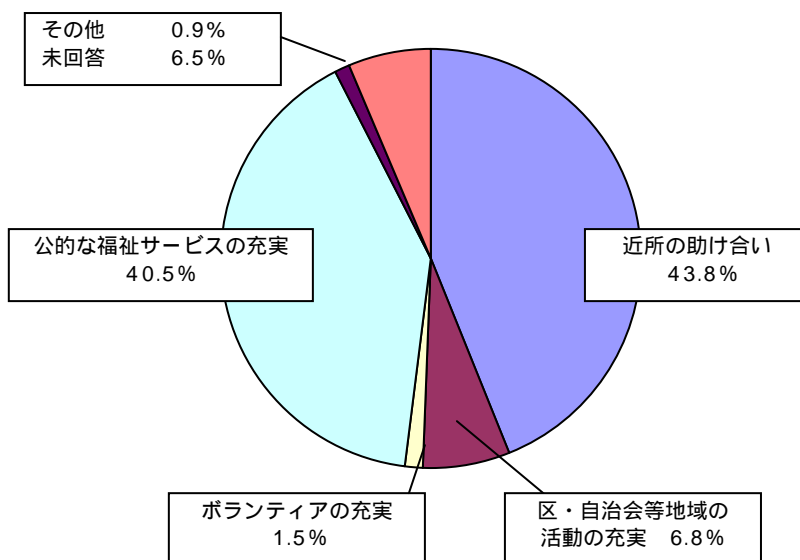
ご近所付き合い

「日頃より親しく付き合っている」が 61.5%で、もっとも割合が高く、「付き合いが殆どない」が 0.9%、「どんな人が住んでいるか分からない」が 0.3%で、もっとも低い。



安心して暮らすために大切なこと

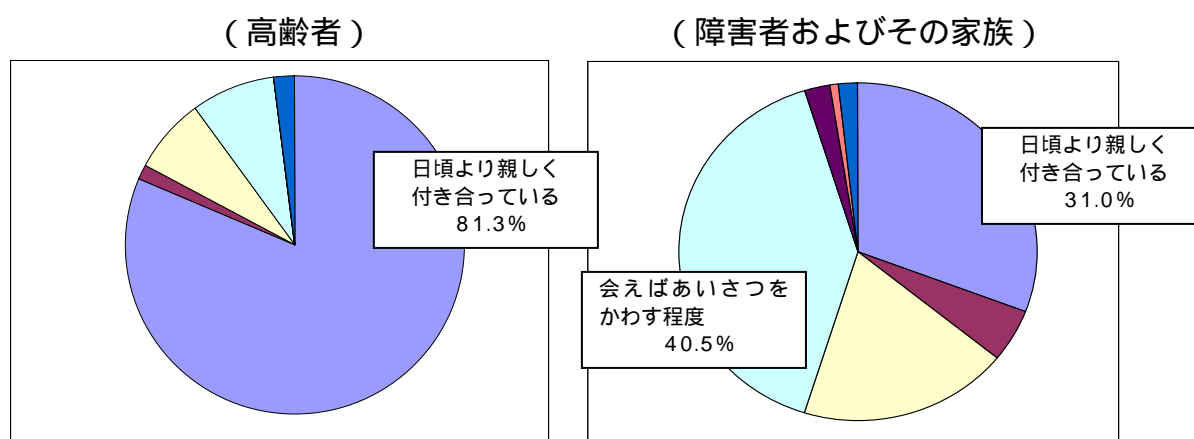
「近所の助け合い」の割合が 43.8%、「公的福祉サービスの充実」の割合が 40.5%とほぼ半数ずつを占めている。



地域のつながりづくりから始まる地域福祉活動

おおむねご近所とのつながりがあり、安心して暮らすためには、近所の助け合いが必要であると多くの人が考えています。

高齢者については、昔ながらのご近所づきあいで、地域で生活を続けてきている方も多く、そのつながりが強い傾向にある一方、障害者およびその家族について目を向けるとその傾向は、弱まります。



このことから、高齢者については、ご近所どうしが、顔見知りの関係の中で、“お互いさま”“助け合い”といった住民どうしの活動(共助)を展開できる環境にあると考える一方、障害者への取り組みとしては、地域の障害に対する理解を育み、地域とのつながりを支援する活動からまずははじめていく必要があると考えます。

アンケートの記述から

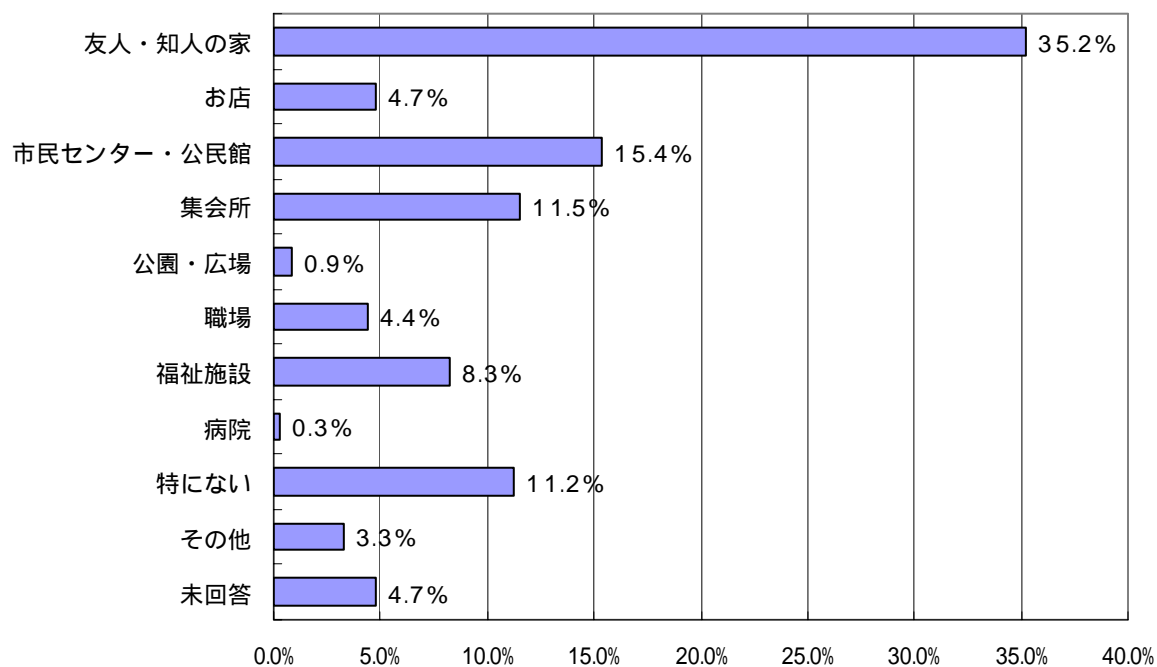
精神科に通っている人のことを理解してもらいたい。学校や地域で啓発活動をして偏見をなくしたい。

期待される地域に密着したボランティア活動

安心して暮らすためとして、ボランティアに期待する割合が小さいが、このことは、近所の助け合いがより高い割合であることを考えると、日頃からの付き合いのなかでの支援を望む声が多いとも受け取れ、地域のつながりの中で援助を提供するといった地域に密着したボランティア活動がより期待されていると考えます。

地域におけるつながりの場 その1（交流の場）

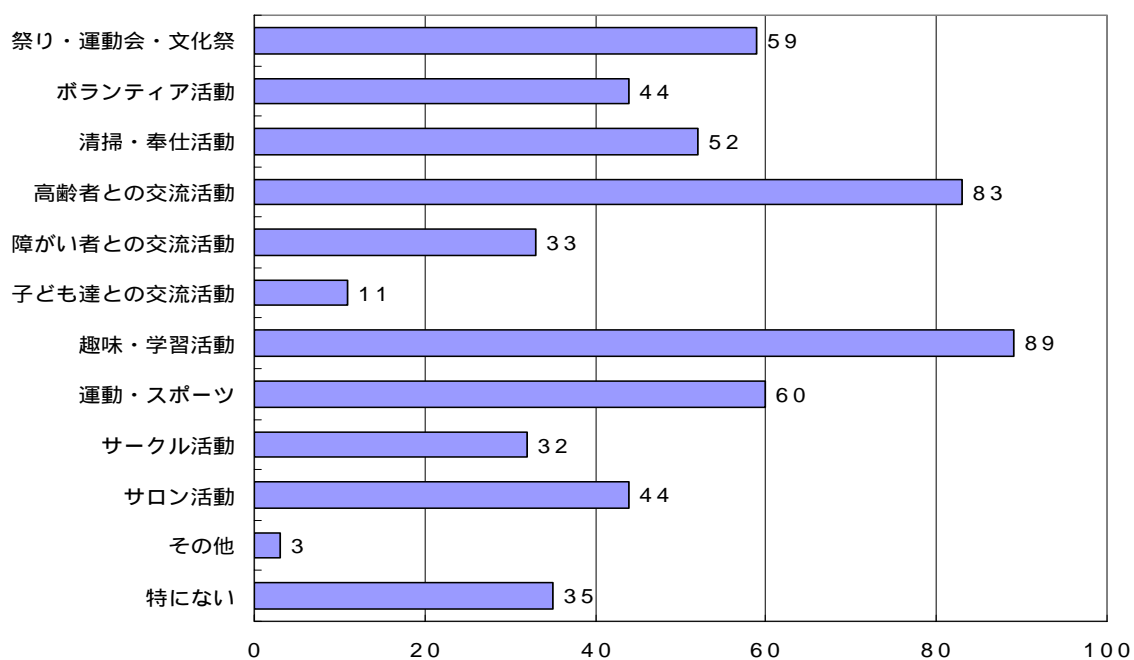
「友人・知人の家」が35.2%で他の2倍以上の割合が高く、「特にない」についても11.2%と高い割合である。



地域におけるつながりの場 その2（参加したい行事・活動）

（2つまで回答）

「趣味・学習活動」がもっとも多く89人、一方「特にない」も35人となっている。



地域における誰もが気軽に立ち寄れる交流の場づくり

つながりの場としては、やはり「友人・知人の家」が多く、気心の知れた者どうしが遠慮なく付き合える場がもっとも望ましいのは当然です。

また「市民センター・公民館」「集会所」など地域の交流場所を挙げている人も多いことから、友人関係の延長線上として、その場所が活用されることで、その場が気軽に立ち寄れる交流の場になれば、友人どうしだけのつながりが、地域とのつながりへと、そのつながりの輪は広がっていくのではと考えます。

また、障害者にとっては、「福祉施設」を交流の場と考えている人が多いですが、障害者の生活の場は施設や家庭にだけあるのではなく、地域で暮らす以上地域の一員としてともに触れ合える場が地域にも必要であると考えます。そのためにも、まずは地域と福祉施設との交流を進めることで、地域にある障害に対する偏見をなくし、誰もが地域に気軽に立ち寄れる居場所づくりができればと考えます。

生きがいづくりをきっかけとした交流の場づくり

参加したい行事や活動としては、「趣味や学習活動に参加したい」という人が多く、そうした内容(生きがいづくり)での活動の場を地域とのつながりづくりの場としてとらえ、地域に広げていければと考えます。

地域における様々なつながりづくり

一方で、交流の場、参加したい行事がともに、「特にない」との意見も多く、自ら出かけることをしたくない、できない人のための地域のつながりづくりとしては、場の提供だけでなく、訪問活動など違った地域とのつながりづくり(関わり方)もまた必要ではないかと考えます。

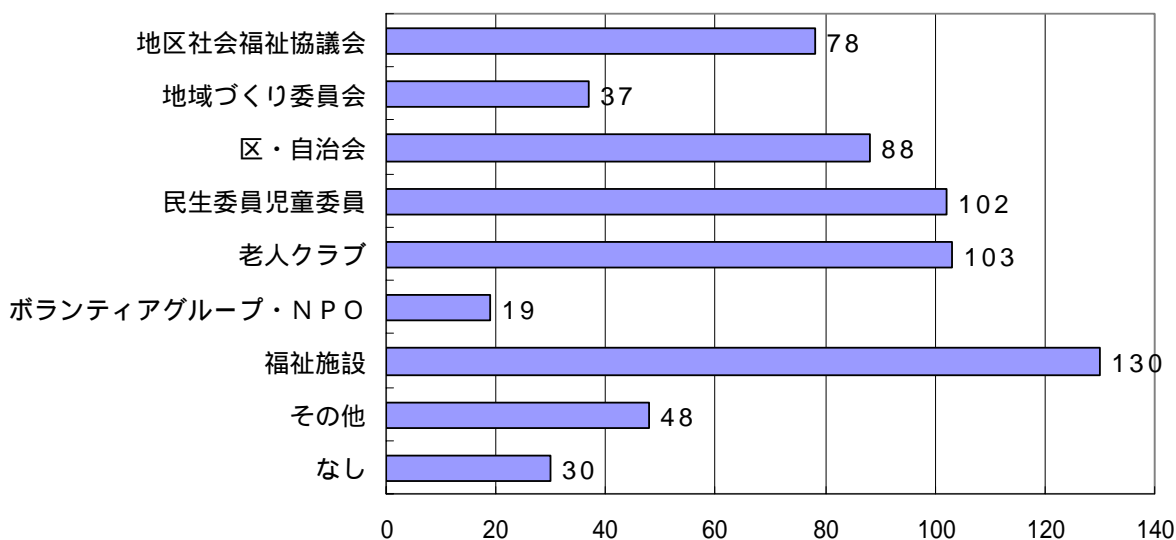
2) 当事者につながる地域の活動

頼りにしている団体

(3つまで回答)

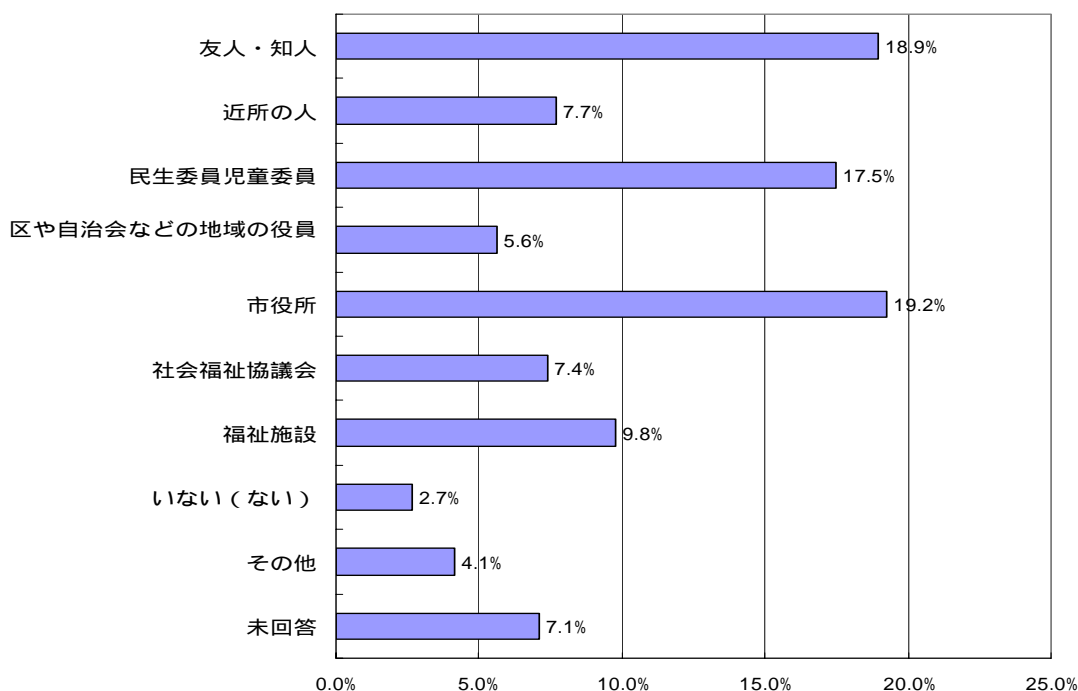
「福祉施設」がもっとも多く130人、次いで「老人クラブ」が103人、「民生委員児童委員」が102人となっている。

(老人クラブの多さは、回答者の多くが老人クラブ会員であるとの要素が強(働いているであろう。))



福祉のことで相談する相手

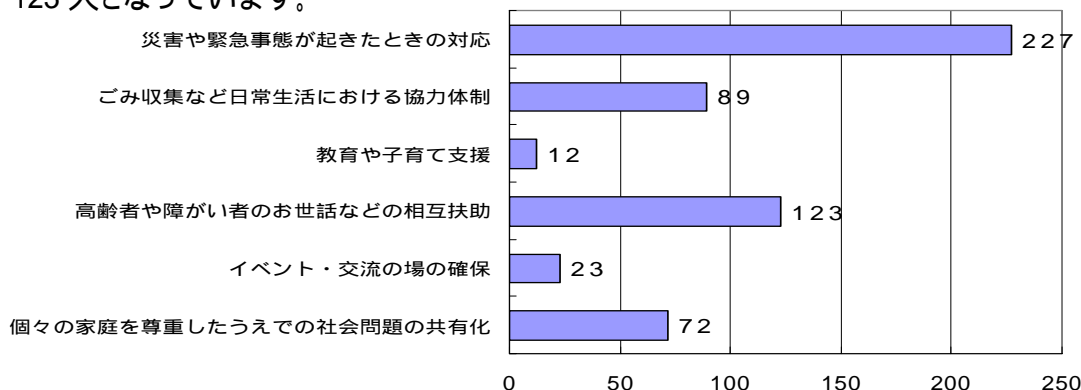
「市役所」の割合が19.2%、「友人・知人」が18.9%、「民生委員児童委員」が17.5%の順で高い。



地域に期待する役割

(2つまで回答)

「災害や緊急事態が起きたときの対応」が 227 人ともっとも多く、次いで「相互扶助」が 123 人となっています。



つながりの中で生まれる支えあいの活動

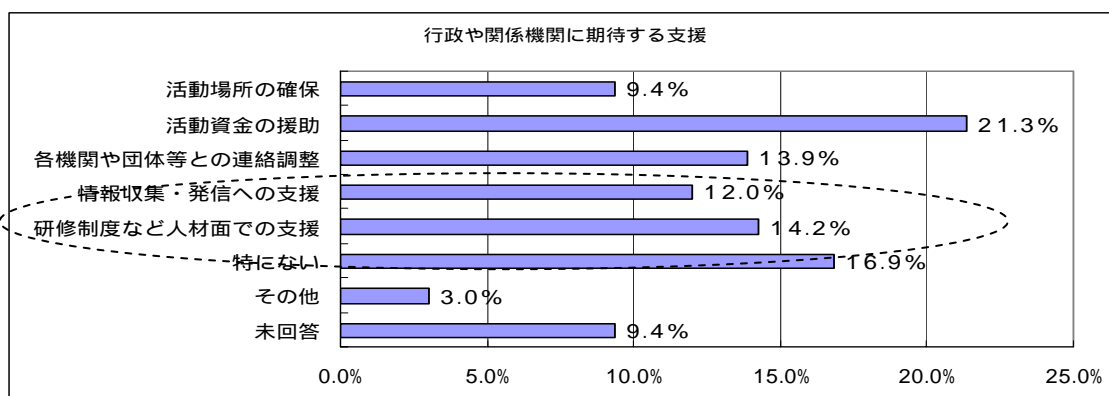
地域に期待される役割としては、「災害や緊急事態が起きたときの対応」がもっとも期待されています。やはり、いざという時には、日頃からの地域のつながりが大きな力になり、また地域の助けが不可欠であると多くの人考えているのでしょう。地域のみんなが地域の一人一人に目を向け、地域ぐるみで見守りがおこなえるようなネットワークづくりが必要です。また、「相互扶助(支えあいの活動)」も日頃からのつながりのなか、気心の知れた関係がないと困難であると考えます。

当事者にかかわる地域の人たちに対する支援

当事者にかかわる団体等としては、日ごろから利用している「福祉施設」を多くあげているのは、当然のことですが、その一方で民生委員児童委員や地区社協をはじめ区・自治会等地域の人・団体をあげている人も多いです。また、福祉に関する相談相手としても市役所など行政をあげる人と同じくらい民生委員児童委員をあげる人も多く、地域の活動が当事者とつながっていることがわかります。

当事者からの相談を受ける機会のなかには、ある程度の知識が要求されてきます。その人たちをサポートする上でも相談時に役立つ福祉に関する情報の提供や研修機会の確保が求められると考えます。

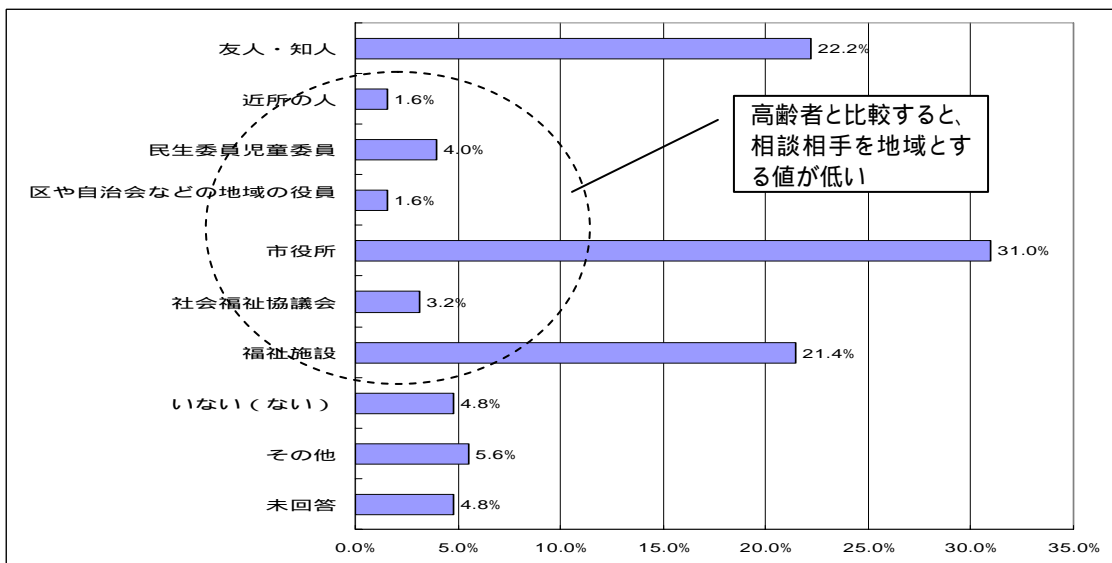
<参考:活動者アンケートから>



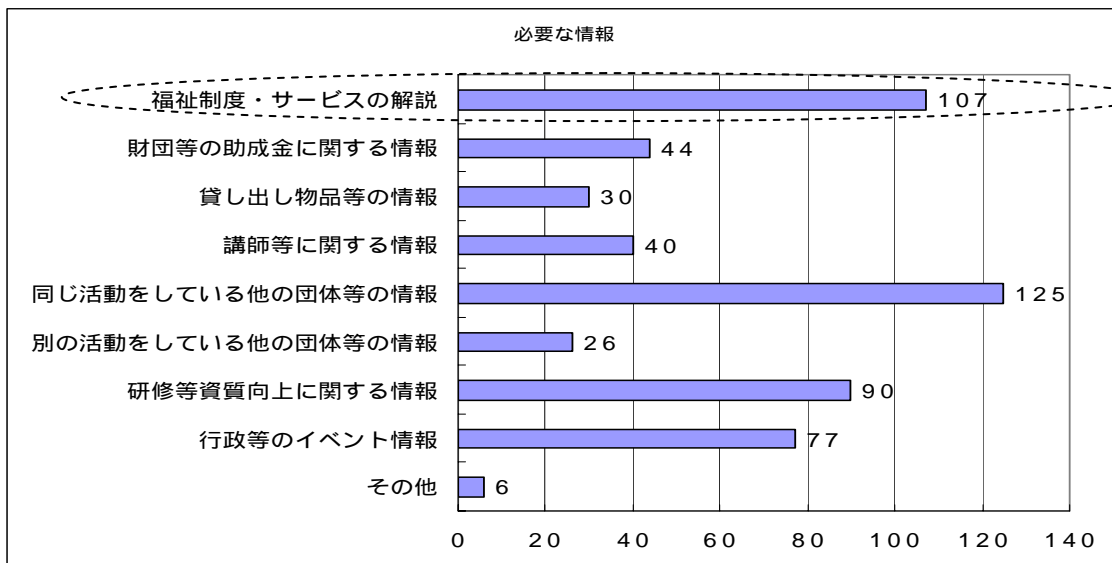
障害者への相談に関する取り組み

障害者だけを見ると、地域で気軽に相談できるほどの環境にはないようです。障害者に関する相談を受ける側にとっても、あるいは相談する側にとっても心理的な抵抗があるのかもしれませんが、ですから、障害者に関する相談も地域で受け止めることのできるよう、障害に対する理解を深めるとともに、地域では困難な課題に対しては、福祉施設や専門の相談機関などと協働しながら関わっていくことができるよう、日頃からの関係づくりが大切であると考えます。

福祉のことで相談する相手（障害者のみ集計）



< 参考：活動者アンケートから >



2. 地域での取り組みを考える

1) 地域のひとりひとりの課題を発見し、地域の課題として共有する取り組み

潜在的ニーズに対する取り組み

アンケートの内容が高齢者に偏ってしまっていること、回答を依頼したのが団体に加入している方であることから地域でも比較的目に付く課題であったことなどを考えると、まずは、幅広く地域のニーズを把握すること、並びに地域では見えにくい潜在的な課題をどう発見していくかを検討していくことも必要であると考えます。

アンケートに対する意見

- ・このアンケートは、障害者にとっては、あまりにかけ離れた質問で驚き
- ・このアンケートの内容では、精神障害者の家族の思いや現状が十分把握できるとは思えません。
- ・このアンケートで何を知らうとし、統計をとったあとどう活用するのかが見えません。アンケートの目的をしっかりと考えて作成してほしい。

当事者やその家族の真剣な声にどう応えていくか

アンケートの記述から

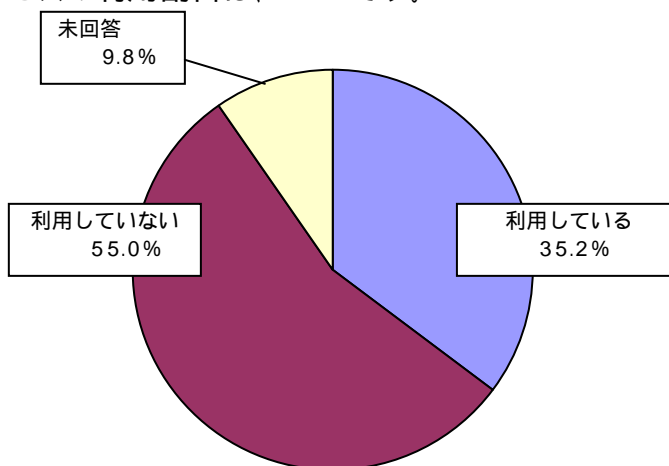
今後、障害者と一緒の生活が続き、このまま、もし私に何かあればと考えると毎日不安を感じています。世の中で心配、不安を抱える家庭の見回り、また電話連絡などがあればと思います。子どもとこれからどう生きていけばよいのか不安です。私がずっと子どもの世話をしながら、これからの生活が続くのか、このまま家の中で倒れていればどうなるのでしょうか。

このような声に地域はどう向き合うべきか、行政や専門機関だけでなく、地域としてもこの課題に対して何が出来るのか、誰もが安心して暮らせるまちにするためには、こうした課題を見過ごすことなく地域の課題として捉え、向き合っていく必要があると考えます。

2) サービスの利用支援活動(相談・援助活動)

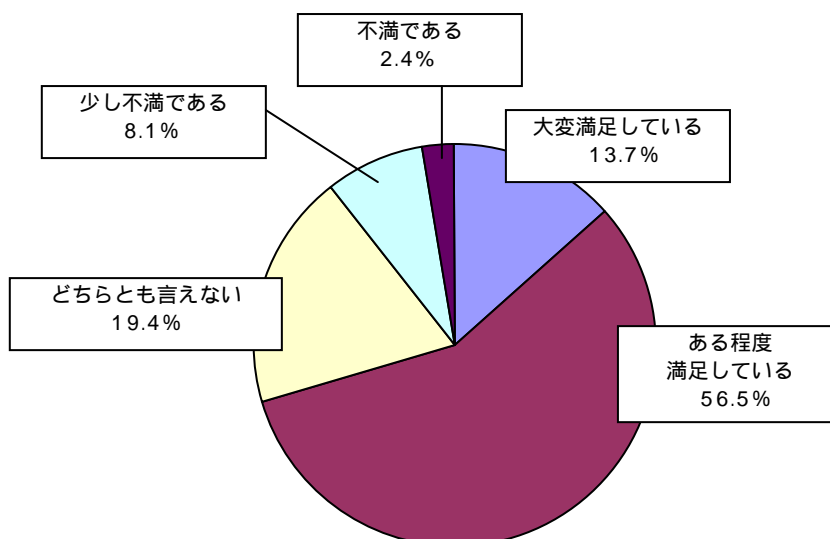
福祉サービスの利用の有無

回答者の福祉サービスの利用割合は、35.2%です。



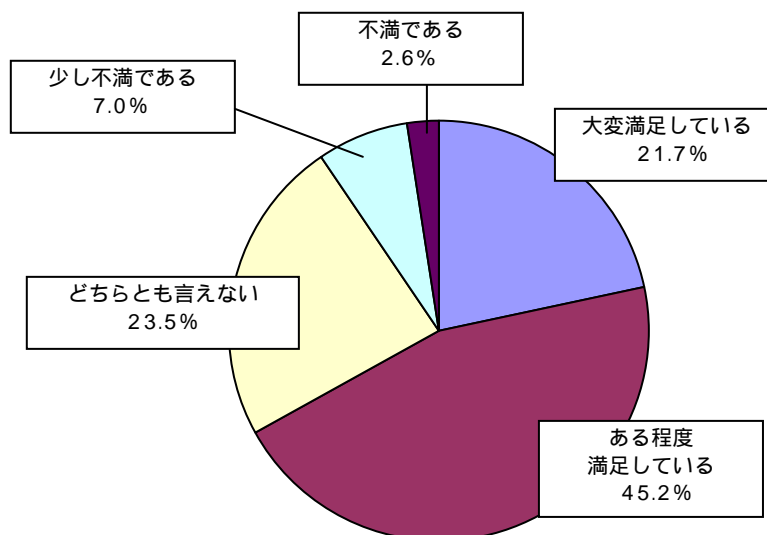
福祉サービスの内容についての満足度

「大変満足している」が13.7%で、「ある程度満足している」が56.5%、あわせて70.2%の方が満足されている。



福祉サービスの利用回数についての満足度

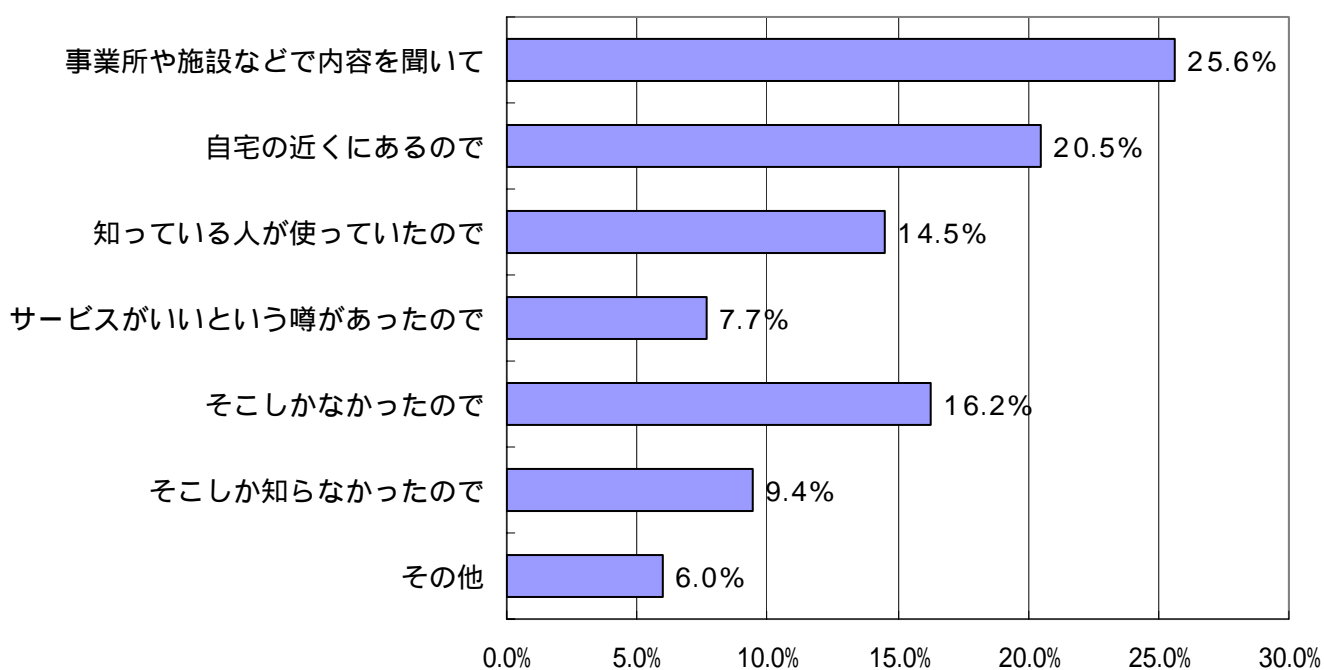
「大変満足している」が 21.7%で、「ある程度満足している」が 45.2%、あわせて 66.9%の方が満足されている。



回答者の福祉サービスの利用割合は、35.2%ですが、そのうちの多くの方がサービスの内容および量についておおむね満足との回答でした。

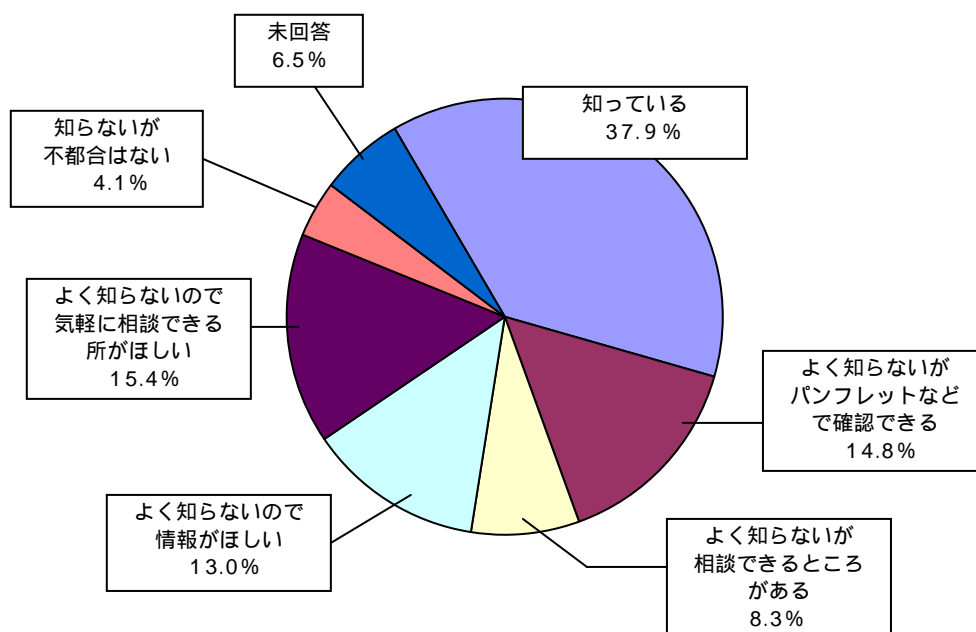
福祉サービスの選択理由

「事業所や施設などで内容を聞いて」が 25.6%と最も高く、次いで「自宅の近くにあるので」が 20.5%となっています。



自分が使える福祉サービスについて知っていますか？

「知っている」の割合が 37.9%と最も高いが、一方で「よく知らないので情報がほしい」が 13.0%、「よく知らないので気軽に相談できる所がほしい」が 15.4%で合わせると 28.4%と高い割合となります。



サービスにつなげる地域の活動

福祉サービスの内容や量的な面で満足度は高いものでした。

ただし、福祉サービスを必要とする全ての人にそのサービスが行き届いているとは限りません。福祉サービスについて、知らない人、よくわからない人、サービス提供の一手手前で悩んでいる人も地域にはいるのではないのでしょうか。

<福祉サービスについて>

よく知らないので情報がほしい 13.0%

よく知らないので気軽に相談できる所がほしい 15.4%

あわせて 28.4%

そんななか、周りの人がそのことに気づき、相談にのり、関係機関につなげることで、福祉サービスにつなぐことができると考えます。

課題を抱える人を支援する地域の取り組みの第一歩として、既存の福祉のサービスの利用につなげる支援をおこなうことが、地域でできることであり、また大切なことだと考えます。また、地域の身近なところで気軽に相談できる体制をつくることも必要な取り組みであると考えます。

3) 地域によるサービス提供(日常生活支援活動)

自らサービスを提供する地域の活動

サービスを個々に見た場合には満足度が高くなっているが、それをトータルに考えたとき、生活全般を見渡したとき、満足な支援でないこともあります。

次のステップとして既存のサービスでは支えきれない課題に対して、地域自らがサービスを提供していく支え合いの活動が求められると考えます。

当事者から見た「あったらいいなと思うサービス」(抜粋)

交流の場

・いつでも行って話しの出来る仲間のいるサロンのようなもの ・各地区には集議所があるから、その場所を利用して、月1度、茶話会、サークル等の会合ができるようなことはどうか。単クの老人会でやればよいとは思っているが
・娯楽的なことで、みんなが笑いあえるような場所、落語会、漫才など ・高齢者の交流・高齢者の交流場所が各町にあればよい ・誰でも自由に出入りできるサロン場所 ・老人憩いの場
・重度でも一人で、土日に気軽に集まれる場所があり、一緒にお茶(コーヒー)が飲めるようになれば、いいかな
・3千円くらいの昼食会を年5~6回実施してほしい ・住民が多く気軽に参加できる事業の充実。毎年同じ事業の繰り返しが多い ・高齢者の一人暮らしの会などがあれば ・規模が小さくても地域の中に福祉センターがあり、身近に利用できる交流の場があればいいと思う ・月に1回でも遊びに行ける場所、そこはサークルで何か教えてもらったり、学んだりするところ、障害者でも知的でもカラオケや体操や何でも教えてくれて楽しいところ。お弁当でも500円くらいの料金で。朝10時から3時くらい、バスの送迎もあればなお良い

生活支援

・一人暮らしになって足腰が弱ったら、食事の世話をしてくれるサークルがほしい ・高齢者への訪問、ケア 買い物の手伝い等 ・高齢者の住宅内で危険な場所、例えば台所(電気、ガス)の点検 ・万一、体が不自由になった時、外出できないことを考えて、定期的買い物などをしていただけたら助かる ・老齢になり日常の買い物等に不自由を感じるようになったときのスーパー等への代行サービスがあればと思う。(あくまでボランティアであれば)
・一人暮らしになると火の始末、戸締りの用心を確認していただけるようなサービスが必要です。 ・一人暮らしになったときに、契約することにより、施設や病院と家と直通の映像で契約者が生きていることを確かめられるシステム、何かあった時は、かけつけてもらえるシステム ・一人暮らしの人々の安否確認 ・110 119番のシステム(ボタンを押せば来てもらえる) 寝たきり、足が不自由、耳不自由、目不自由の障害者は喜ぶ ・障害者が日常生活するための支援事業所

移動・外出支援

・ナッキー号の乗車できる所を多くしてほしい ・年齢とともに買い物に行きたいと思っても、駅の階段が大変です。ナッキー号が来てくれたらと思っています ・施設サービスを受けたくても近くになく、交通の便から行けません。ナッキー号も路線バスもないので、どうすることも出来ない ・無料タクシー ・ナッキー号の充実(障害者施設利用で

自力通所している人又は家族が送迎している人のためにナッキー号の走るコースを考慮していただき、利用できるようにしてほしい。) ・無料の送迎サービス。どこに行くにもタクシーか歩くか、ヘルパーの車。遠くに行きたくてもお金のことを考えると出かけられない。我慢している ・電動車いす、シルバーカーも乗車できる、山坂の激しい各団地にもコミュニティバス「ナッキー号」を運行して欲しい ・車の移動(送迎) ・外出するときに(遊びに行くとき)介護タクシーを利用しますが、私一人では不安なのでもう一人看護師さんかヘルパーさんがついていただけたら良いなあと思います ・外出時のガイドヘルパーを気軽に頼めるといいです

健康づくり・介護予防・生きがいづくり

・介護予防のための施策の充実 ・高齢者が独自に自主的に経営できる事業がほしい。例えば、市から休耕田を世話いただき、高齢者の集団で野菜類を栽培し、販売しその収益の一部を福祉に寄贈する。高齢者には煙草銭を支給すればよい。生きがいと健康のため、ぜひこのような事業を考えていただきたい ・保健指導等で食事のカロリー計算とか献立指導等 ・老人を対象にした巡回(各字単位)健康診断(定期的に) ・高齢者でできるボランティア活動 ・近くで休日でも軽い病気について診察が受けられる医院が欲しい。また相談できる場所があれば ・視覚障害者でも運動できる機具や場所(現在使っていない学校の空き教室等)があったらいい

相談・サービス利用支援

・福祉サービスについて情報提供、気軽に相談できる場所、紹介を広報を利用して行ってほしい。 ・障害を持つ姪などには何でも相談にのっていただけたらうれしい ・老後の体が不自由になった時、簡単に福祉サービスのお世話になれるように ・成年後見人制度の充実 ・あまり外に出られない。障害者のための訪問相談があればいい ・簡単に入所や相談が出来るようにしてほしい ・子供が高齢になってきたときの財産管理など具体的な援助を受けられるようになればと思います

施設

・気軽に利用できる福祉施設があればいい ・近くにデイサービス施設を ・近所に事業者や施設がないのでつくってほしい ・長く待機することなく、お世話になれる特別養護老人ホームの増設を充実 ・宅老所的な施設 ・複合施設を市内にもっと増やしてほしい ・老齢により身体が不自由となったときに、すぐ入所できる施設 ・24時間対応のケアハウス 家庭的な施設 ・デイサービスで早朝の朝食を用意してくれること ・中高生(障害児)のデイサービス(軽度の知的障害児) ・他の地域では温浴施設が充実していますが、わが地域でも早く整備していただきたい ・障害者をもつ親にとって両親が倒れたときや、見てあげれないときの受け皿 ・老後、障害者とスーブの冷めない距離で接しあうことが出来る施設があれば安心です

その他

・障害者雇用促進 ・親亡き後の生きる場所の確保が心配です ・住み慣れた地域でずっと生活していけるように、下支えしてくれるネットワークの構築 ・傾聴ボランティア ・有償の若年ボランティア ・バリアフリーの充実 ・在宅訪問 ・話し相手 ・障害者当事者が主体となった就労支援サービス

第2部 地域福祉活動をしている方（以下「活動者」という）にきく

目的

現在、地域福祉活動をおこなっている方を対象に、日頃感じている地域や福祉に対する想い、活動に対する想いや課題について耳を傾けることにより、今後の活動のあり方や支援策を検討することで地域福祉活動計画をより実行的なものとする可以考虑実施したものです。

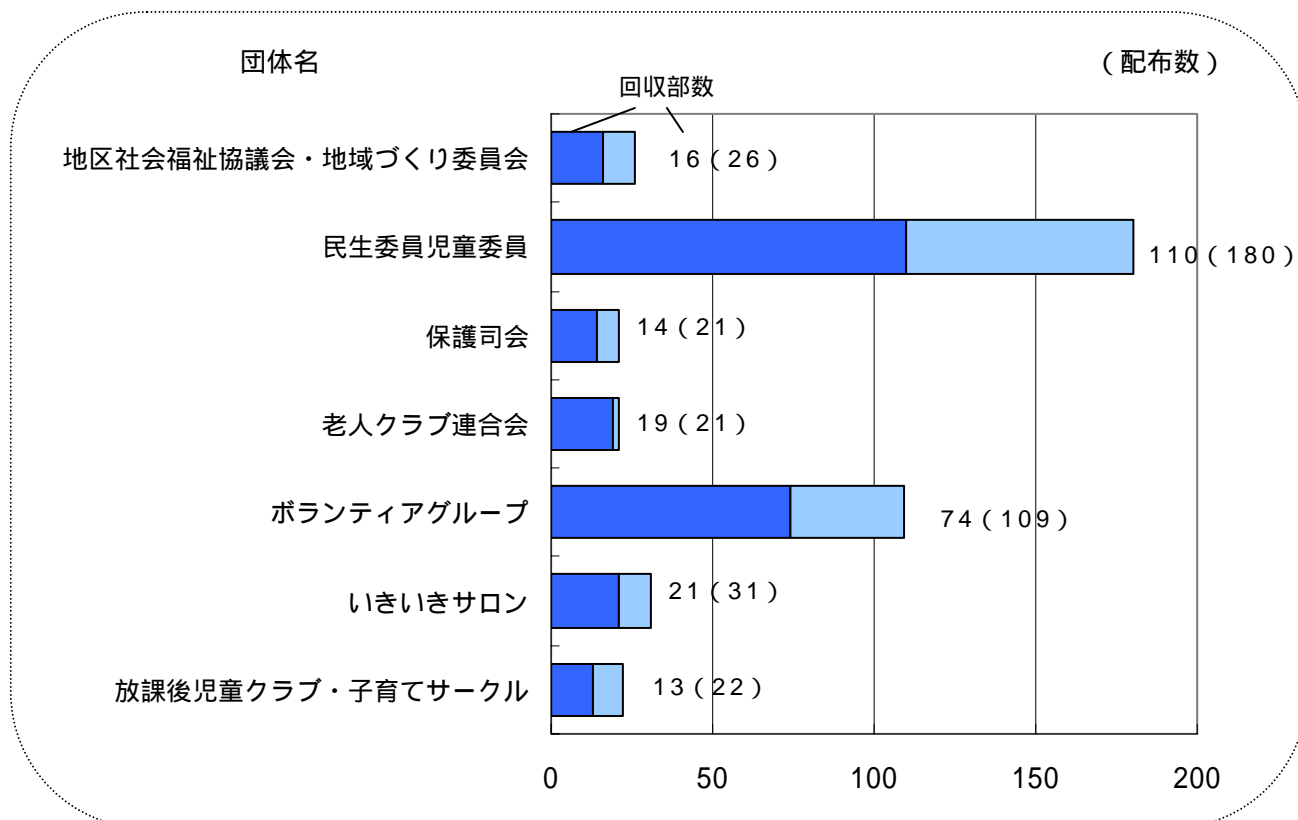
実施期間

配布開始日 11月2日（木） 回収期限 12月8日（金）

回収数・回収率

配布部数 410部 回収部数 267部 回収率 65.1%

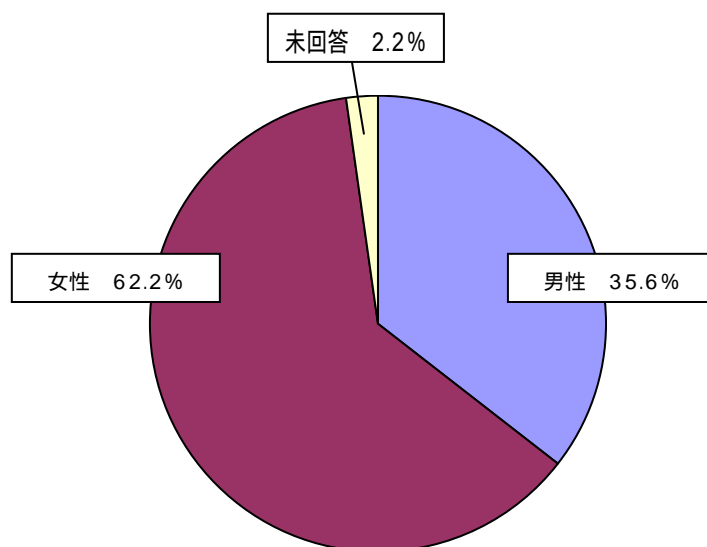
協力依頼数



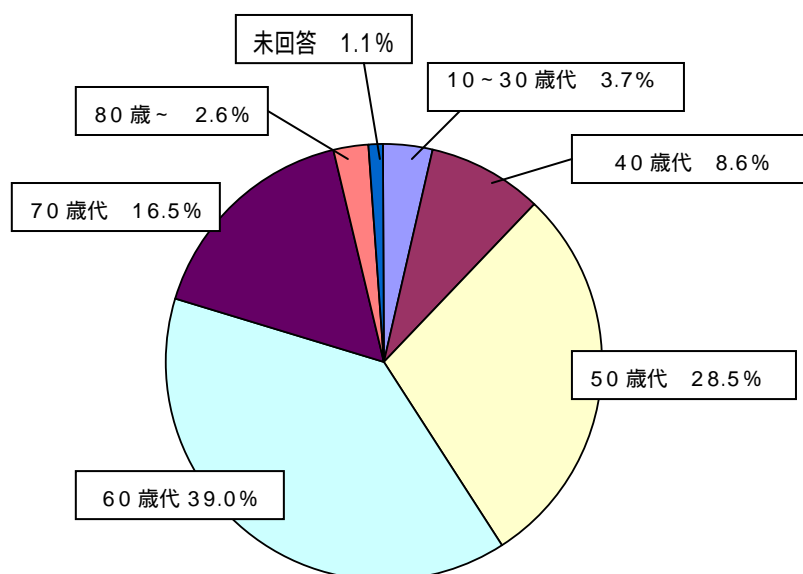
ボランティアは、ボランティアセンター登録団体に依頼しました。

回答者自身について

性別



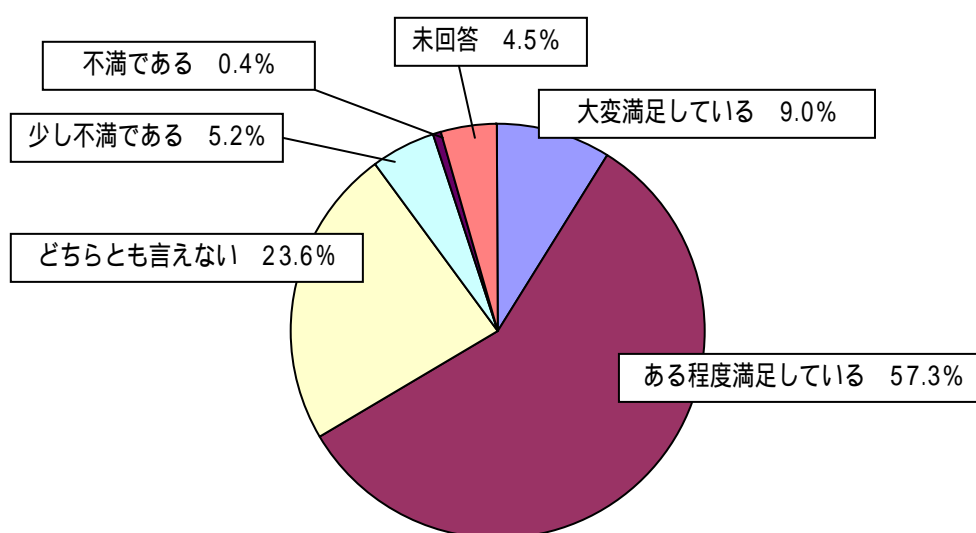
年齢



1. 活動者自身が今抱えている課題を考える ～ 活動の維持・継続のため

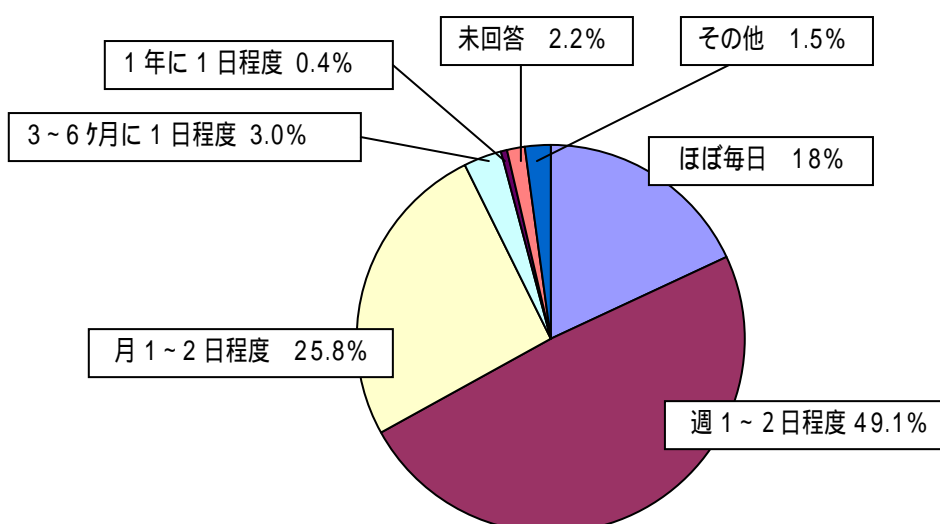
活動の満足度

「大変満足している」が9.0%、「ある程度満足している」が57.3%で、満足している割合は、あわせて66.3%となっています。



活動の頻度

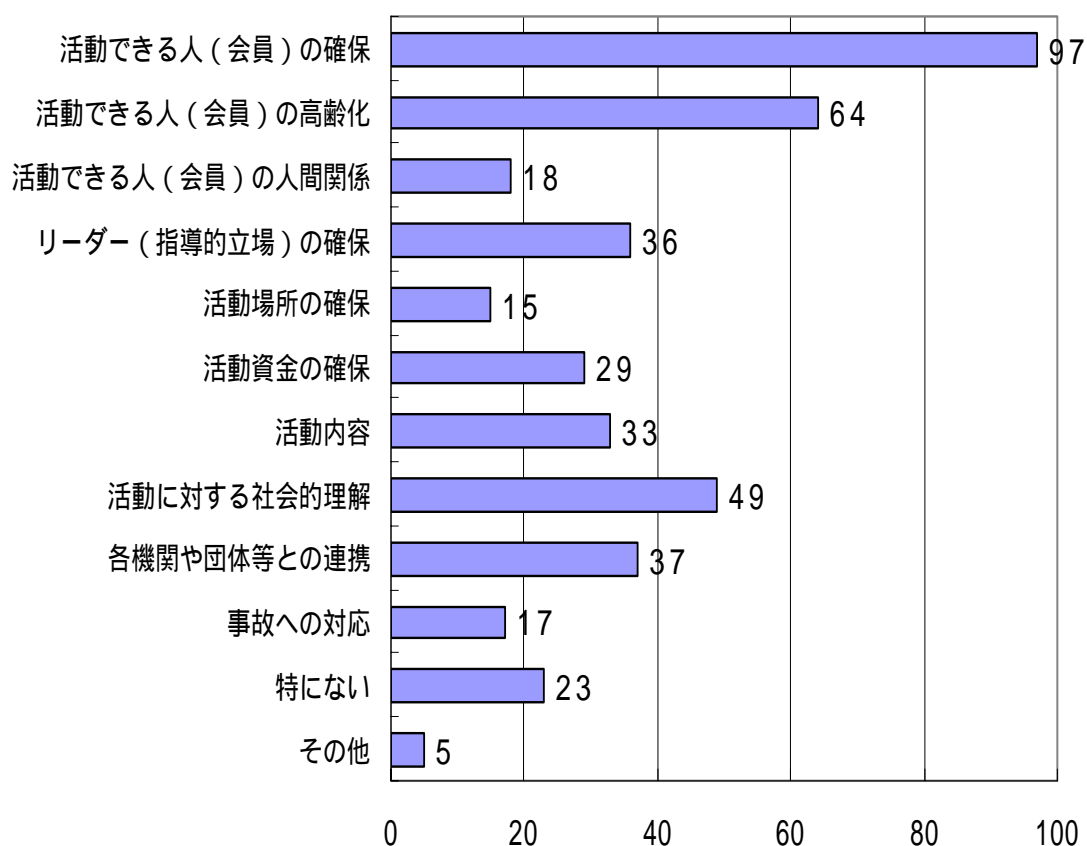
「週1～2日程度」の割合がもっとも高く、49.1%となっています。



活動で問題に感じること

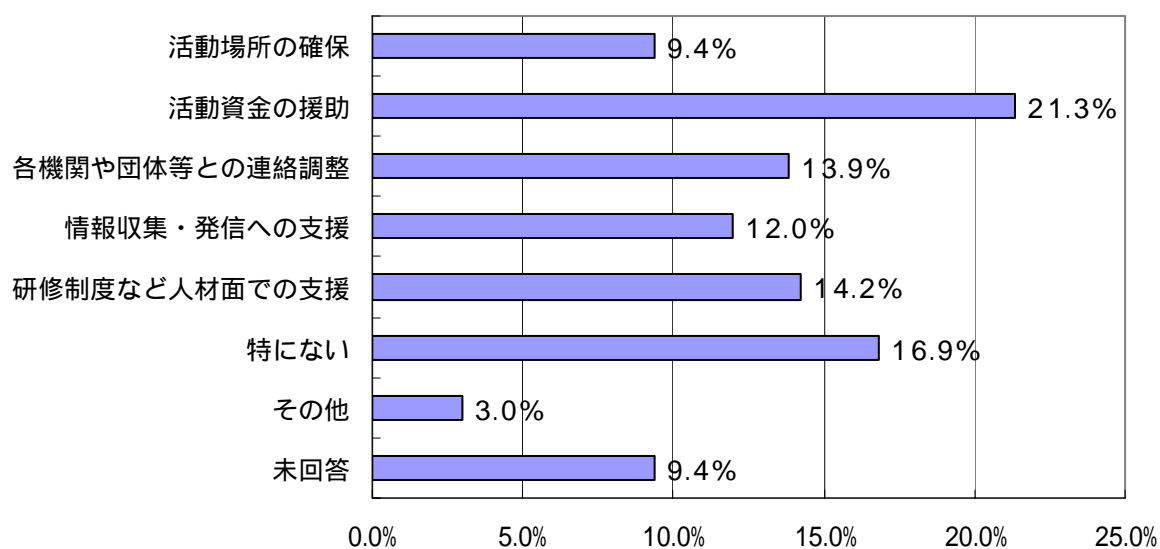
(2つまで回答)

「活動できる人の確保」が 97 人ともっとも多く、次いで「活動できる人の高齢化」が 64 人となっています。



行政や関係機関に期待する支援

「活動資金の援助」が 21.3%ともっとも割合が高い。一方、「特にない」も 16.9%と次に高い割合となっています。



活動にともなう負担に関する意見（抜粋）

・平日の会議、研修会では、活動と仕事を両立させることができない
・活動以外の事務的な負担が大きい・雑多な用事が多すぎる
・活動場所、経費の不足でいい活動がむずかしい
・なぜ活動資金を自前で用意しなければならないのか、助成金についても縛りがある。もっと積極的な支援を
・民生委員に対する活動依頼が多く負担が大きすぎる
・ボランティアをいのように使っているのではないか

活動する人材に関する意見（抜粋）

・男性ボランティアが少ない
・地域のなかで活動できる人が限られてきて、その一部の人に過度の負担がのしかかっている
・地域にリーダーとなる人材が育たない、そのため一人のリーダーがいくつものことを担当せざるを得なくなる
・団体の役員が他の組織の役員をかねることが多く、多忙になって困る
・活動に必要な人員を集めるのが大変
・ボランティアスタッフの高齢化と後継者さがしが課題
・団塊世代の退職者の活動場所を具体化し、これからの福祉の充実にあてるべき

活動継続に対する懸念

活動に対する満足度で言えば、「大変満足している」(9.0%)、「ある程度満足している」(57.3%)をあわせると 66.3%となり、高い割合を示している。また、活動の頻度についても、「ほぼ毎日」が 18.0%、「週 1～2 日程度」が 49.1%と活動者自身非常に忙しく活動されている。

しかし、活動を進めていく上での課題として、「活動者の確保」、「活動者の高齢化」が高い割合を示しています。また意見においても「一部の人に過度の負担がのしかかっている」などの問題が指摘されており、このことは、現在、活発な活動を通じ地域福祉を支えている団体において、あらたな会員の増加が期待できないうえに、いま活動している方の高齢化による会員の減少により、活動を維持・継続させていくことの難しさを懸念されていることを意味します。また、民生委員児童委員においては、活動の負担が重くのしかかっており、自身の活動の継続のみならず、後任選定の難しさを訴えています。

今後、地域福祉活動が維持・継続され、さらには発展していくためには、より多くの活動への参加・支援が必要であり、活動への周囲の理解・協力、さらには人材発掘・育成の取り組みが重要であると考えます。

個人情報保護の意識高まりによる思いがけない壁

個人情報保護の意識の高まりが、地域の活動特に民生委員児童委員活動において壁となっています。(社会福祉協議会においても同様です。)地域の課題を発見したり、地域の要援護者を見守る活動においては、地域にどういった方が暮らしているのかを知ることから始まります。

個人情報の保護の意識には配慮しながらも、行政や地域組織、各種団体等で持っている地域の情報についてできるだけ共有できるよう取り組むことも必要であると考えます。

個人情報に対する民生委員児童委員からの意見(抜粋)

- ・個人情報の意識の中で、あまり細かく聞くことができない
- ・もっと民生委員を信用してほしい。自分たちの足で情報収集しないといけないことが多い
- ・行政は、民生委員児童委員をもっと信用して、活動しやすいように必要な情報を提供すべき

活動に対する社会的な理解

個人情報保護の問題でもそうですが、活動に対して地域の理解と協力が必要な場面が多々あります。地域の福祉活動を円滑にするためにも、地域や行政・関係機関等に対して福祉の取り組みに対する理解を深めるための啓発活動が必要であると考えます。

活動に対する社会的な理解に関する意見(抜粋)

- ・活動に対し、周囲が理解してくれない
- ・福祉に関する理解が住民はもちろん、区長、自治会役員等に不足している
- ・地域で信頼関係を築きながら活動しているのに、専門外として蚊帳の外になってしまうことがある
- ・活動している側と受け入れる側とに活動に関する受けとめ方に温度差がある

活動補助金について

行政に対する支援について、「活動資金の援助」が 21.3%ともっとも割合が高い。一方、「特にない」も 16.9%次に高い割合となっています。自律的運営を基本とする活動者の意識にあっては、限られた財源を有効に活用するとともに活動補助金等については、無駄な縛りを設けることなく、活動者自身の裁量を広げ、より自由な使い方ができるように補助金制度を改めていく必要があると考えます。

2. 活動の輪を広げるために必要なこと ~ 交流・連携

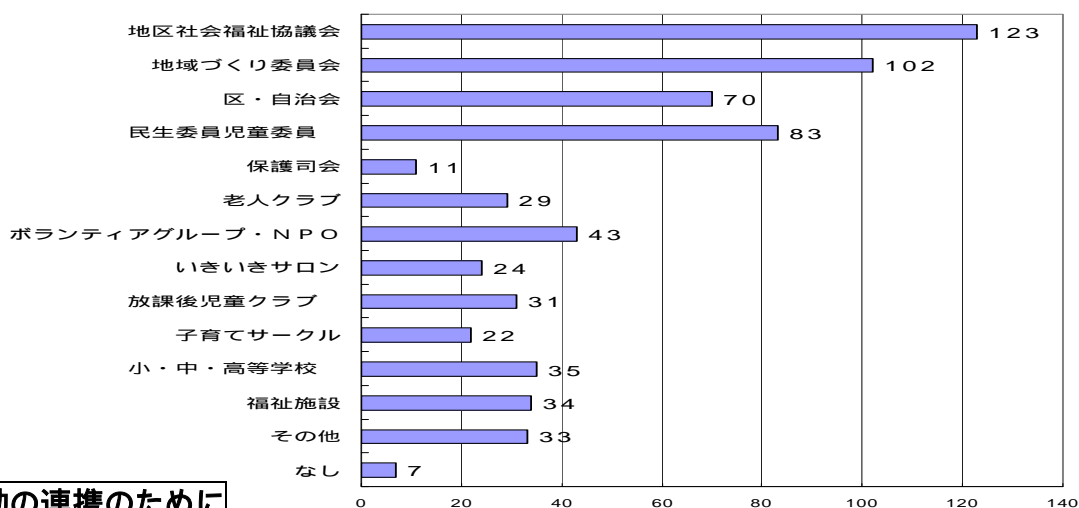
活動充実に向けての意見（抜粋）

- ・他で活動されている方との交流をもちたい ・活動を永續させるためにはグループだけの活動の終わらせてはならない ・異分野での協力、ネットワークづくりに不備がある ・ボランティアも素人、いざという時には専門職の協力が必要 ・情報提供の場がほしい ・子育てサークルにおいてその親子だけでなく、地域で他に活動している老人クラブやサークルなどと交流できればいい
- ・マンネリ化を防ぐため、常に新たな試みを考えている ・活動発表できる場がほしい

協力関係にある団体等

（3つまで回答）

各種団体で構成されるプラットフォーム的な組織である「地区社協」「地域づくり委員会」がもっとも多く、それぞれ123人と、102人となっており、次に民生委員児童委員が83人となっています。



活動の連携のために

活動を発展させるためには、やはりその団体の活動だけに終わらせるのではなく、さまざまな団体や専門機関が連携して活動をおこなっていくことが大切だと考えます。まずは、連携づくりの第一歩として、さまざまな団体が自ら情報発信し、情報交換することにより、互いの活動を認め支えあい、そこから連携の輪が広がればと考えます。またその連携の輪を広げる支援ができるのは、プラットフォーム機能・コーディネート機能を発揮する地区社会福祉協議会や地域づくり委員会などではないかと考えます。

活動の連携に関する意見（抜粋）

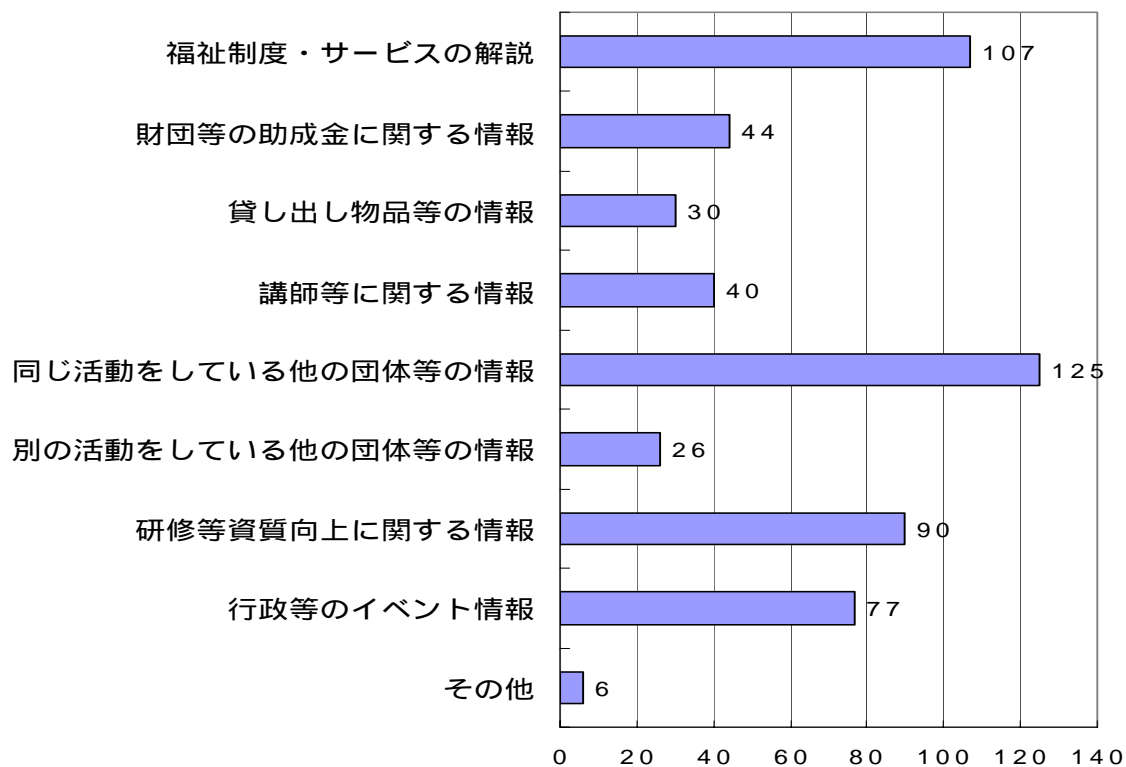
- ・福祉が本当に必要な人に届いているのか疑問に感じることがある
- ・幼児から高齢者までの一貫した支援のシステムが行政にないので、民間の活動もバラバラになっているのではないかと
- ・区、自治会、地区社協、まちづくり活動の一本化を図るべき

情報交流から始まる関係（連携）づくり

必要な情報

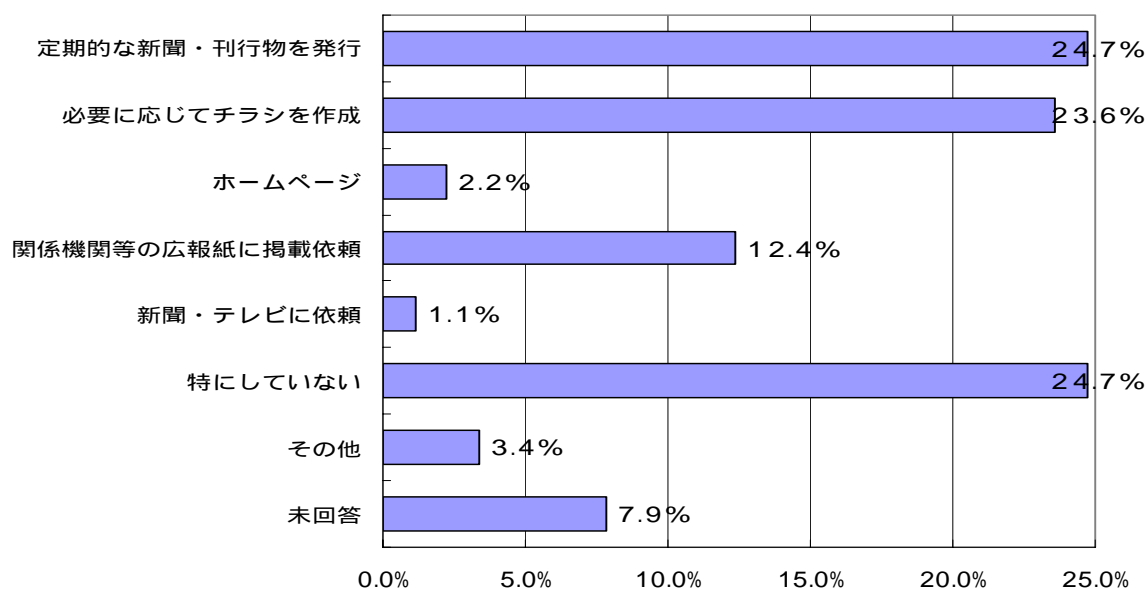
（3つまで回答）

「同じ活動をしている他の団体等の情報」が125人ともっとも多い。



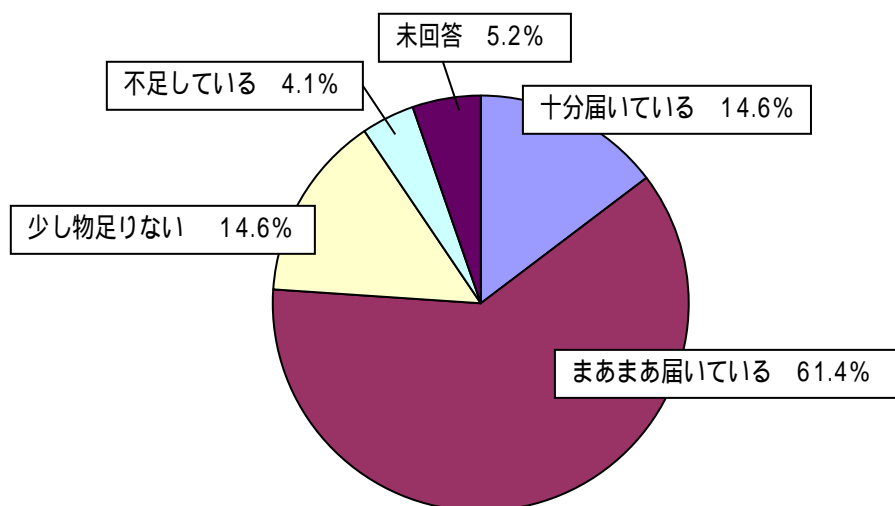
情報発信の方法

「定期的な新聞・刊行物を発行」が24.7%、「必要に応じてチラシを作成」が23.6%と割合が高い一方、「特にしていない」も24.7%と高い割合となっている。



必要な情報は十分に届いていますか？

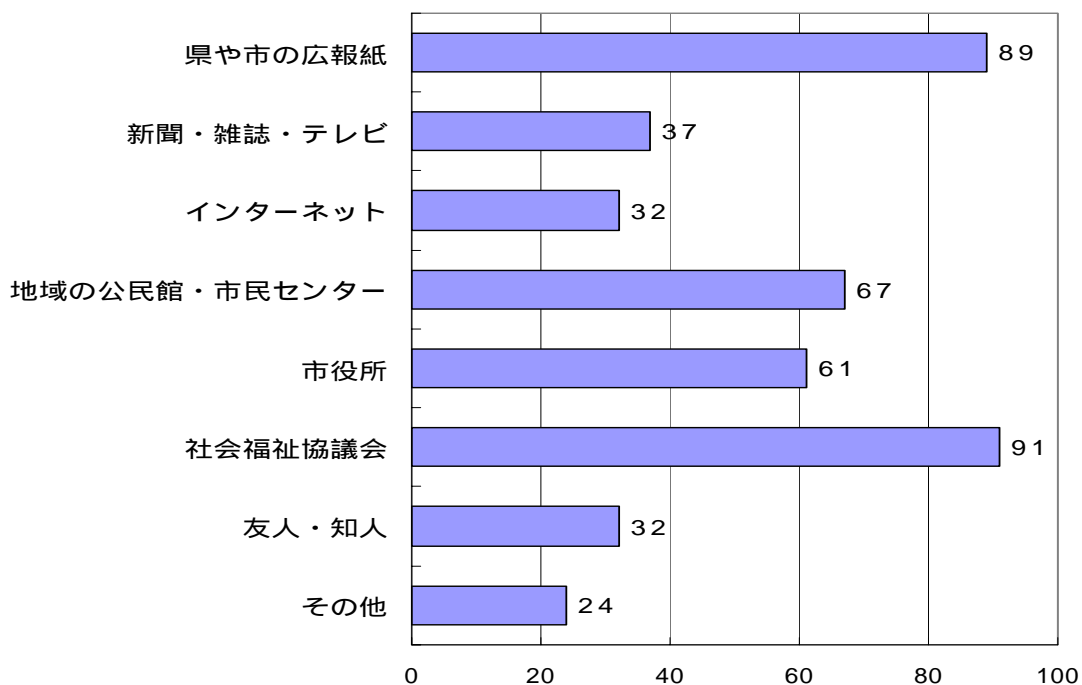
「十分届いている」(14.6%)、「まあまあ届いている」(61.4%)をあわせると 76.0%となります。



福祉の情報はどのように入手していますか？

(2つまで回答)

行政や社会福祉協議会からの情報をもっとも多いです。



活動の発展のために

活動を発展させるためには、やはりその団体の活動だけに終わらせるのではなく、さまざまな団体や専門機関が連携して活動をおこなっていくことが大切だと考えます。

まずは、連携づくりの第一歩として、さまざまな団体が自ら情報発信し、情報交換することにより、互いの活動を認め支えあい、そこから連携の輪が広がればと考えます。

情報交換による交流

活動に必要な情報として、「同じ活動をしている他の団体等の情報」をもっとも多くの人があげていました。

活動での行き詰まりを他の事例で検証することを期待してのこととも考えられます。

情報発信について

「定期的な新聞・刊行物を発行」が 24.7%、「必要に応じてチラシを作成」が 23.6% と割合が高い一方、「特にしていない」も 24.7% と高い割合となっており、まずは、自ら情報発信していく取り組みをさらにすすめていく必要があります。

情報発信の方法について

「新聞・刊行物発行」「チラシの作成」などが、地域に情報発信する手段として多く用いられているのは、必要な人に直接伝えることのできる手段として効果的であるし、その内容も限定的なものかもしれません。また地域が限定されているがゆえ、直接配布・回覧することも容易であるからでしょう。

一方、ホームページは、直接的に配布するなどといったチラシなどとは違い、利用されてはじめて活かされるものであり、発信する側からすれば心もとない手段と写るかもしれません。ただ、情報を求める人からすれば、ホームページは、自分の好きなときに気軽に時間・場所にとらわれることなく情報に接することができる手段です。

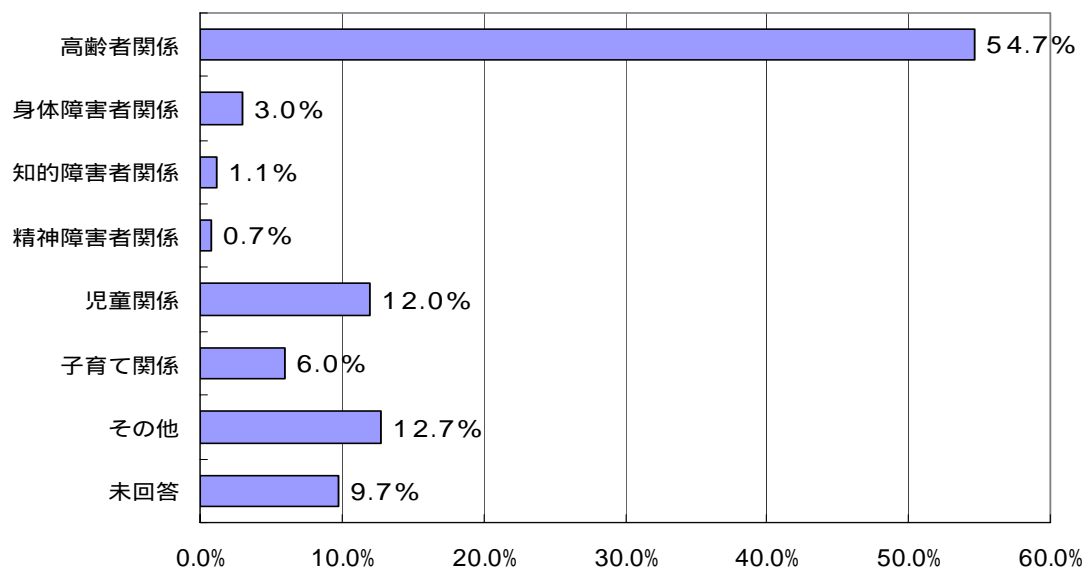
情報交流の基礎づくり

活動交流の第一歩としての情報発信しあうことによる交流を広げていくため、さまざまな活動者によるホームページでの情報発信により、互いの活動を知り、認めあうことで、交流の基礎を作っていきたいと考えます。

3. 新たなる展開に向けて

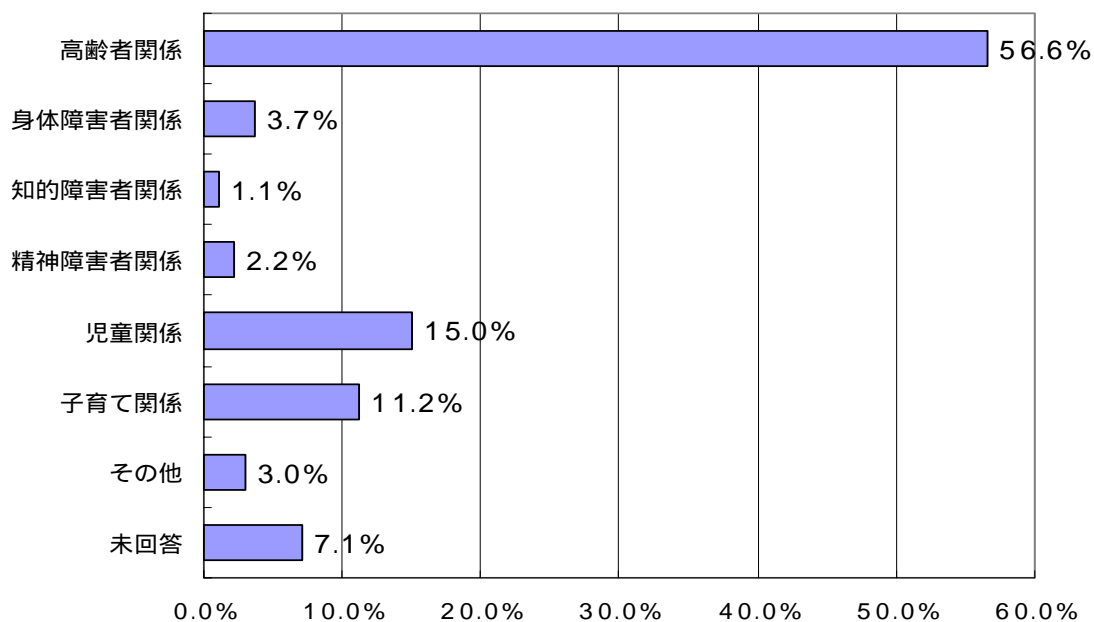
主な活動の対象

「高齢者関係」が54.7%ともっとも割合が高いです。



今後、活動で力を入れているべき分野は？

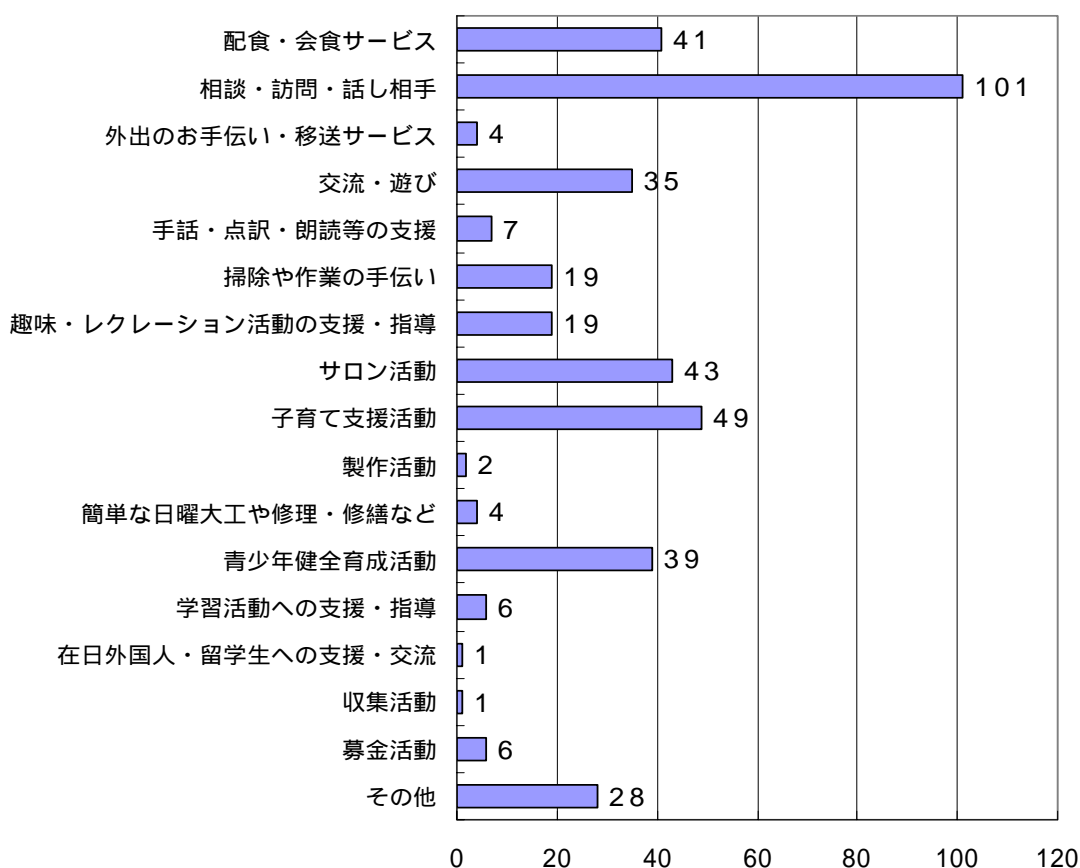
「高齢者関係」が56.6%と半数以上を占めています。



主な活動の内容

(2つまで回答)

「相談・訪問・話し相手」が101人ともっとも多く、次いで「子育て支援活動」が49人となっています。



今後の活動 ~ 高齢者への支えあいの活動・障害者へ目を向ける活動

活動対象や今後力を入れるべき分野としては、「高齢者関係」が大半を占めています。今後ますます高齢化していく社会にあっては、当然のことであり、活動者自身もいずれは高齢者になるのですから、自らの問題として身近に感じているからでしょう。ですから、今後の活動については、高齢者の日常生活を支える活動、特に公的なサービスでは補いきれない日常の支援がより求められていきますし、そういった活動が活発に広がっていく必要があると考えます。

また一方で、高齢者以外に障害者など地域の支援を必要としている人がいるのも事実です。高齢者の問題ほど身近には感じ取れないかもしれませんが、そういった方々にも目を向けていく努力が地域でも求められると考えます。誰もが安心して暮らせるまちを目指していくため、まずは、地域のいろんな課題に目を向けていくことも必要であると考えます。